

学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 39 号	氏 名	谷 千賀子
審 査 委 員		主 査 氏 名	大澤 健司
		副 査 氏 名	浅田 祐士郎
		副 査 氏 名	保田 昌宏
[論文題名] Histopathological changes in the pancreas of cattle with abdominal fat necrosis 腹腔内脂肪壊死症に罹患した牛の膵臓における病理組織学的変化 Journal of Veterinary Medical Science (accepted)			
[要 旨] 牛の脂肪壊死症は肥満が誘因となり、膵臓との関係も指摘されているが発症機序については不明な点が多い。本研究の目的は、牛において膵臓内の病変と腹部脂肪壊死の発生との間に関連があるかどうかを明らかにすることである。 食肉処理場における黒毛和種 14 頭、ホルスタイン種 15 頭の計 29 頭を供試、膵臓を採取すると共に腹腔内臓器を検査した。黒毛和種 14 頭中 9 頭の腹腔内に脂肪壊死塊が認められた。組織学所見では膵臓の脂肪壊死が 27 頭に観察された。Iba-1 による免疫組織化学染色において、膵臓の脂肪壊死を取り巻くマクロファージが多数観察され、黒毛和種ではホルスタイン種と比較して膵臓における CD3 陽性 T 細胞が有意に多かった。Iba-1 陽性細胞数と CD3 陽性細胞数との間には有意な相関が認められた。BCS と膵臓の脂肪浸潤、膵臓の脂肪壊死、炎症細胞、線維化との間でそれぞれ有意な相関が認められた。また、黒毛和種の膵臓において、脂肪浸潤と膵臓の脂肪壊死との間で有意な相関が、膵臓の線維化は膵臓の脂肪壊死および炎症細胞の浸潤との間で有意な相関が認められた。さらに、膵臓における線維化は、腹腔内の脂肪壊死塊の形成との間に相関傾向を示した。 以上の結果、牛において肥満と膵臓における脂肪浸潤との間に関連があることを明らかにした。また、脂肪壊死が膵炎と膵液の漏出を誘発し、腹腔内に脂肪壊死を形成する可能性を示した点が評価できる。本研究による知見は今後の肥育牛における飼養管理の改善を講じる上でも有用であり、同時に獣医療の新たな展開を拓く可能性を有しており、学位論文に値するものであると判断した。			